

令和 8 年度第 2 回山鹿創生塾

令和 8 年度山鹿創生塾では「ライター体験」と題して、山鹿市の中学生高校生を対象としたワークショップを開催しています。

8 月 6 日（木）に、第 2 回山鹿創生塾を開催しました。第 2 回目は山鹿市内の学生 24 名（中学生 6 名、高校生 18 名）の参加があり、「台湾について知る」をテーマに台湾出身の 2 名をゲストに迎え、お話していただきました。後半は、教えてもらったことを参考に台湾の方が興味を持つ山鹿とは何か考え、記事を企画し、取材先を選定するワークショップを実施しました。

1 人目のゲストはくま台湾 Neo（一般社団法人くま台湾 Neo）のメンバーで、合同会社つながるアグリ代表の陳 韻婷（チン ユンティン）さん。中国語での挨拶の仕方や台湾とはどんなところか、台湾の人が好みそうなもの、日本と台湾両方で生活してきたからこそわかるそれぞれの良さ等、実体験を交えながらお話いただきました。台湾の方が家族をより大切にしているという話や温かい料理が好きで朝食は外で食べるのが当たり前といったお話は、後半の Formosa 九州に掲載する記事を企画する上でよりよいヒントとなりました。

2 人目のゲストは、Formosa 九州の編集部のメンバーで、熊本の製薬会社勤務の許 静珉（キョ セイミン）さん。日本のアニメ、アーティスト好きをきっかけに、ワーキングホリデーで熊本に来日し、その後も日本に残りたいと熊本の企業に就職されました。10 年ほど熊本に住んでいるとのことで気づいた熊本の良さや山鹿の魅力を台湾の方視点で語っていただきました。山鹿が大好きで定期的に鹿北に泊まりに行っていること、かほくまつりに参加したり、シルクシャンプーを愛用していたり、今年は山鹿灯籠千人踊りのメンバーとして踊りの練習をしていたことなど、いかに山鹿が魅力あふれる場所か熱く語っていただきました。

後半は、グループに分かれて次回取材に行く場所の候補先を決めました。台湾の方が興味関心を持ちそうなものを意識しながら、「スポット」「グルメ」「歴史」「イベントまつり体験」「お土産」に分かれて、それぞれが取材したい場所を話し合いました。候補先が決まったあとは、グループごとにどんなテーマでどんなところ取材したいかを発表しました。ゲストの陳さんと許さんから、取材候補先について「お味噌汁や卵焼きなどの和食好きな人が多い」「台湾人は体験を好む」「県立装飾古墳館は歴史のスポットとしてはもちろん、建築家の方も有名なので建物として見学したいと思う台湾人も多いと思う」といった取材候補先についてアドバイスをいただきました。

最後に各個人で振り返りを行いました。「台湾について知ることができておもしろかった」「ゲストの話を取材に生かしたいと思った」「山鹿での暮らしに感謝したいと感じた」「台湾と日本は似ているところもあれば、朝食は外食することなど違うことも知れてよかった」「地元についてこんなに真剣に聞いたり調べたりすることがあまりなかったので新鮮でした」など感想が寄せられました。